

お彼岸

「彼岸」はサンスクリット語の「波羅密多」から来たものといわれ、煩惱と迷いの世界である【此岸(しがん)】にある者が、「六波羅蜜」(ろくはらみつ)の修行をする事で「悟りの世界」すなわち【「彼岸」(ひがん)】の境地へ到達することが出来るというものです。

太陽が真東から上がって、真西に沈み昼と夜の長さが同じになる春分の日と秋分の日を挟んだ前後3日の計7日間を「彼岸」と呼び、この期間に仏様の供養をする事で極楽浄土へ行くことが出来ると考えられていたのです。



春分と秋分は太陽が真東から昇って真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになる日ですが、お彼岸にお墓参りに行く風習は、この太陽に関係しています。

仏教では、生死の海を渡って到達する悟りの世界を彼岸といい、その反対側の私たちがいる迷いや煩惱に満ちた世界を

此岸(しがん)といいます。

そして、彼岸は西に、此岸は東にあるとされており、太陽が真東から昇って真西に沈む秋分と春分は、彼岸と此岸がもっとも通じやすくなると考え、先祖供養をするようになりました。

お彼岸に良く見られる「ぼたもち」と「おはぎ」は、餅米とアankoで作られた同じ食べ物です。しかし食べる時期が異なる為、それぞれの季節の花を意識して名前が変えられています。

春の彼岸にお供えする場合は「牡丹餅」と書き、一般的にはこしあんを使用します。

秋にお供えする場合は萩〔はぎ〕の花を意識して「お萩」と呼ばれ、あんは粒あんを使用します。

また、あずきは古くから邪気を払う効果がある食べ物として食べられており、それが先祖の供養と結びついたと言われていました。



当院では3月20日、小さな牡丹餅をデザートに提供しました。ご先祖さまを思い、何となく懐かしさを感じながら牡丹餅を食べていただけたのではないのでしょうか。



此岸

煩惱、
四苦八苦

三途の川



彼岸

永遠の平和、
最高の喜び

生きとし生けるもの
よ、私と一緒に彼
岸に渡ろう。



菩薩

何も恐れることはあ
りません。わたしの
後についてきな
さい。